

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1494000035
法人名	社会福祉法人 松友会
事業所名	ピースフルライフ さくら草
訪問調査日	平成21年3月27日
評価確定日	平成21年4月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1494000035
法人名	社会福祉法人 松友会
事業所名	ピースフルライフ さくら草
所在地	259-1132 伊勢原市桜台三丁目9番32号 (電話) 0463-97-3770

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成20年 3月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17 人	常勤	2 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 8.0 人

(2)建物概要

建物構造	準耐火造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	3	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83.5 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	須藤内科、佐藤メンタルクリニック、あやめ歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは小田急線伊勢原駅から徒歩10分位いと便利なところにある。平成10年に社会福祉法人 松友会が認可され、平成11年には特養「らの里」、ケアハウス「らの家」を始めとして福祉関連施設の展開を図ってきた。グループホームと認知症対応型サービスの「さずらん」と老健「さきょう苑」も1箇所を集結して福祉ゾーンを形成し、伊勢原市の福祉推進に貢献しているが、「さくら草」は少し離れた町中の住宅地にある。一般デイサービスの利用者の中に認知症の比率が増加していることもあり平成19年に1ユニットのグループホームと、小規模多機能型居宅介護施設を1つの建物に併設した。地域に溶け込んだ、違和感の無い建物で、玄関には入居者のご家族の丹精された四季の花々が咲き、地域にマッチした佇まいである。2階の天井は吹き抜けで、自然光が入って明るく心地よい。開所に詳しい職員が意見を出し合い7項目の理念を作成した。理念の中には地域との交流を大切に、地域に根ざすことを目標に謳ってある。ケアについてはご利用者を中心に、自然体で、無理をせず、ゆったりした対応を心がけている。ご利用者は掃除等の家事のほかに外出や季節の行事を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間は地域と交流したり、併設の小規模多機能と連携することを心がけてきた。自治会主催で独居の高齢者を対象とした毎月1回開催されるミニデイの「あじさいクラブ」には出来るだけ全員が参加するようにし、地域の高齢者やボランティア、民生委員の方との交流を図っている。近所の公園へは散歩に行ったり、お弁当を持って花見に行ったりして近隣の人達と交流するようにしている。1階にある小規模多機能とはクリスマスや餅つきなどのイベントをを一緒に行い楽しんでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を一年間の活動の総まとめとし、各自及び全体の自己評価を行っている。また、これを基にさくら草の改善に努めていく。自己評価は職員会議等で実施の意義を説明し、理解してもらっている。また、評価結果、ご家族からのアンケート結果なども真摯に受け止め、職員会議などで改善するように努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年6月に第1回目を開催し、伊勢原市の了解も得て年3回のペースで実施している。また、同様に市の了解も得て併設の小規模多機能型居宅介護と共同開催している。メンバーは自治会長、民生委員2名、ご家族2名、伊勢原市役所、地域包括支援センター、法人理事、さくら草管理者、ケアマネジャー2名、相談員1名である。内容はホームの状況報告が主である。前回はご家族の了解を得て1年間の活動状況を写真で紹介した。行政や地域包括からは介護保険に関する情報や助言を頂いており、日々の運営の参考としている。自治会は非常に活発で、災害時の対策などの情報交換をしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>受診等は基本的に家族対応としている為、ご家族は最低でも1ヶ月に1回は訪問して下さっている。ご利用者の生活の様子や健康状態などは来所されたときに管理者、看護師、相談員、担当職員などが、異なった観点で詳しくお話をするよう努めている。看護師が月～金まで勤務しており、ご家族及び職員の安心に繋がっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>この地域は自治会が非常に活発である。防災に対する住民の意識も高く、昨年の防災訓練の時には300人余の方が参加されている。さくら草も自治会に加入し、回覧板も回してもらっており、防災訓練にも参加した。毎年、自治会主催の盆踊りには入居者ご家族も参加している。地域ボランティアでは絵手紙、フラワーアレンジメントや鍼灸師の方が利用者の治療が終わった後、皆さんと健康体操をして下さっており、いずれも好評である。また、運営推進会議では地域の傾聴ボランティアをご紹介頂くようお願いしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員それぞれの想いを会議で話し合い、理念として作り上げた。家庭的な雰囲気の中で地域の一員として生活して頂けるように支援していく。		今後も継続し、理念に沿った支援をしていきたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は介護職としての基本的理念を踏まえながら、さら草独自の理念の実践を心がけている。理念に基づいたケアプランを作成し、その人らしく生活出来るように援助している。また、日々の申し送りや職員会議で確認している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	伊勢原市の入所系ネットワークに参加し、地域の中で孤立する事のないようにしている。地域の自治会に加入し、地域のミニデイ(あじさいクラブ)にも参加し、地域の高齢者や自治会の方と交流をしている。この地域は自治会が非常に活発で、住民の意識も高く、先日の防災訓練の時には300人余の方が参加されたり、盆踊りの参加も多い。管理者は地域との交流を深めるため、自治会の総会、会議に参加するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一年間の活動の総まとめとし、自己評価及び外部評価を行っており、また、今後はこれを基にさら草の改善に努めていく。職員会議等で実施の意義を説明し、理解を得ている。また、評価結果、ご家族からのアンケート結果なども真摯に受け止め、職員会議などで改善するように努めている。		今後も継続して実施して行く。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目を平成19年6月に開催し、爾後、メンバーの要望もあり、伊勢原市の了解も得て年3回のペースで実施している。同一建物内にあるグループホームとは、これも市の承認を得て共同開催で実施している。利用者の状況やサービス提供の実際について報告を行い、意見をいただいている。また、評価結果及び指摘事項について報告をし、意見等を伺った。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のミニデイなどに参加し、地域の自治会や包括支援センターの職員にさくら草の状況について随時話をしている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来所された際には細かく状況報告を行っている。また健康状態等に変化があったときは随時電話で連絡を取り、報告を行っている		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に管理者、法人 市、国保連の連絡先を明記し、契約時に説明している。また、ケアプランの提示の際にも確認し、苦情等を遠慮無く話して頂けるように心がけている。また、苦情相談受付ポスターに受付窓口を明記している。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤が1名増えたが、非常勤の職員の入れ代わりが17人中4名ほど有った。その際にはご利用者及びご家族に報告している。今後は慣れた職員が離職することの無いようにしていきたい。		今後も継続して要員の維持に努めて行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネ更新などの研修や、認知症実践者研修の受講は随時確保している。また、職員の経験に応じた外部研修に参加させている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所系施設のネットワーク会議や法人内の事業所間の連携がおこなわれている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開所時は事前にさくら草内で慣れて頂く事が出来なかったが、現在は併設の小規模多機能型居宅介護を利用して頂きながらさくら草に馴染んで頂くことが出来る		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に掃除や調理、片づけ等の家事をし、お互いに助け合うことで、連帯感が生じる。同じ時間を共有する中で、喜怒哀楽が自然に表現されている。また、料理などで先人の知恵を教えることもある。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な利用者には随時希望等聞くように心がけている。それが難しい方の場合は、家族の情報や生活されている様子から本人の意向をくみ取るように検討している。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的あるいは利用者の状況に変化が生じたとき、家族や利用者を交え管理者、職員がプランの見直しを行っている。また、職員会議の時間を利用し、ケース検討を行いプランに反映させている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や疾病などで利用者の状況に変化が生じた場合は、状況に応じて見直しをおこない、現状に即したケアプランを作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症のデイサービスやショートステイ、小規模多機能施設を利用しながら自然に入居して頂いていく。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族対応で定期受診をして頂いているが、受診後は家族に状況報告して頂いている。また、家族対応が難しい方には受診の支援を行っている。緊急時には直接かかりつけ医に連絡し、救急対応の病院への情報提供をお願いしている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に基づく介護について、家族から同意を頂いている。また、状況で家族来所時に家族や本人の希望を聞く事があり、その際は家族及び本人の希望を共有するように努めている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴やトイレの介助の時には、他の利用者には気づかれないように配慮している。記録などの個人情報の取り扱いには十分注意している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間等本人のペースに合わせて柔軟に対応している。入浴なども状況によっては日時をずらすなどの対応をし、強制することの無い様にしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を一緒に行いながら職員も一緒に食べ、食事が生活の楽しみになるように働きかけている。また、好みを把握し、食べられないものに関しては別の物で対応している。食後の片づけも一緒に行っている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に6日入浴日を設け隔日に入浴して頂いている。利用者も把握して楽しみにしている事が多い。どうしても入浴したくないと言われたときは無理に勧めず、時間をおいて再度勧めるか、翌日の対応としている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物等の外出やお弁当を持っての散歩等を随時実施し、生活に楽しみを持って頂く様にしている。また、協力し合いながらの掃除や食事の準備 後かたづけなどを行うことで張り合いを持って頂くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暑さ寒さが厳しくないときに、体調を見ながら希望に添って対応していくように心がけている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	小規模多機能の利用者で非常に外出事故を起こす可能性の高い方が何人もおられるため、玄関の施錠は実施している。ただ、住居が2階なので施錠されていると苦情を訴えられるご利用者がおられない。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各居室に防災頭巾を設置、事務所にヘルメットを備えた。利用者を交え夜間と昼間想定避難訓練を実施している。災害時には法人(松友会)や自治会の協力をお願いしている。運営推進会議の時に地区の避難場所を確認している。また、職員が自治会主催の避難訓練にも参加し、近隣の方に認識していただいている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体格や運動量に合わせた食事量の提供に心がけている。毎月体重測定を実施し、極端な体重の増減が無いかどうか確認しながら、食事量にも配慮していく。水分は不足しないようにこまめに提供している。水分摂取が充分に出来ていないと思われるときは、水分と尿量の確認をしている。食事摂取量は毎食記録している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員同士の会話や食事後片づけの際に不快な音がしないように心がけている。また、まぶしいと訴えがあったときや、真夏の強い日差しはカーテンなどで遮るようにしている。季節の花や行事に合わせた飾り付けをし、居心地の良い空間を提供するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染んでいる物を持参して頂いている。本人の希望に応じて家族が随時模様替えしたり、フラワーアレンジメントで作製した花などを飾り、居心地良く生活して頂くようにしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	社会福祉法人 松友会 認知症対応型共同生活介護 ピースフルライフさくら草
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 伊勢原市
記入者名 (管理者)	茂野 京子
記入日	平成 21 年 3 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員それぞれの想いを会議で話し合い、理念として作り上げた。家庭的な雰囲気の中で地域の一員として生活して頂けるように支援していく。		同左 今後も継続し、理念に沿った支援をしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は介護職としての基本的理念を踏まえながら、さくら草独自の理念の実践を心がけている。理念に基づいたケアプランを作成し、その人らしく生活出来るように援助している。また、日々の申し送りや職員会議で確認している。		同左 今後も継続していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	さくら草として自治会に加入し、地域の行事等に参加しながら交流を持っている。また、運営推進会議等でさくら草が地域の中で暮らしていきたい事を話している。		同左 今後も継続していく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気候の良いときは積極的に地域散歩に出掛け、挨拶を交わしている。今後もよりさくら草を身近に感じて頂けるように努めていく。		同左 今後も継続していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	伊勢原市の入所系ネットワークに参加し、地域の中で孤立する事のないようにしている。地域の自治会に加入し、地域行事(盆踊りなど)に参加している。また、地域のミニデイ(あじさいクラブ)にも参加し、地域の高齢者や自治会の方と交流をしている。		同左 今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市からの紹介やパンフレットを見て来所された方の話を聞き、場合によっては他の介護施設の紹介や介護保険制度の説明などを行った。	○	地域の高齢者の方にさくら草に来て頂けるような雰囲気作りに努めていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で実施の意義を説明し、理解を得ている。また、評価結果、ご家族からのアンケート結果なども真摯に受け止め、職員会議などで改善するように努めている。		一年間の活動の総まとめとし、自己評価及び外部評価を行っていく。また、今後はこれを基にさくら草の改善に努めていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、利用者の状況やサービス提供の実際について報告を行い、意見をいただいている。また、評価結果及び指摘事項について報告をし、意見等を伺った。		同左 今後も継続していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のミニデイなどに参加し、地域の自治会や包括支援センターの職員にさくら草の状況について随時話をしている。		同左 今後も継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政書士による財産管理等を行っているご利用者がおられるので、成年後見制度について随時学ぶ機会を持っている。また、必要に応じて相談に乗って頂いている。		今後も、必要な方には活用して頂けるようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされていないか常に意識しており、随時ご利用者の状況や職員の行動に注意を払っている。また、職員会議や日々の申し送りでも確認しあっている。		管理者は虐待防止に関する市の開催する会議に参加し、学ぶ機会を持った。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書、契約書を説明し納得して頂いた時点で押印して頂いている。その際に解約についての説明も行い同意を得ている。		同左 今後も継続していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者が遠慮せずに意見、不満、苦情を言える雰囲気作りを心がけている。		同左 今後も継続していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来所された際には細かく状況報告を行っている。また健康状態等に変化があったときは随時電話で連絡を取り、報告を行っている		同左 今後も継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に管理者、法人 市、国保連の連絡先を明記し、契約時に説明している。また、ケアプランの提示の際にも確認し、苦情等を遠慮無く話して頂けるように心がけている。また、苦情相談受付ポスターに受付窓口を明記している。		同左 今後も継続していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や提案を聞き、反映させている。また、年に何回かは運営者が出席し、意見を聞いている。日々の申し送りでも随時意見を採り入れている。		同左 今後も継続していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院付き添いやご利用者の急な状況変化については、職員、管理者等が柔軟に対応できるようにしている。外出や行事の際には職員数を増やし、安全に実施できるようにしている。		同左 今後も継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤が1名増えたが、非常勤の職員の入れ代わりが17人中4名ほど有った。その際にはご利用者及びご家族に報告している。今後は慣れた職員が離職することの無いようにしていきたい。		同左 今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み				

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネ更新などの研修や、認知症実践者研修の受講は随時確保している。また、職員の経験に応じた外部研修に参加させている。		同左 今後も継続していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所系施設のネットワーク会議や法人内の事業所間の連携がおこなわれている。		同左 今後も継続していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月運営会議を開催し、管理者や職員の意見や問題点を聞く機会を設けている。また、さくら草職員の依頼で、運営者との話し合いをもうけた。必要に応じ随時相談の時間を設け、支援体制を作っている。。		同左 今後も継続していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修に参加させる。資格取得後の時給への反映、法人内の正規職員への転換の機会を作っている。また、職員会議に随時参加し、職員の業務状況把握につとめている。		同左 今後も継続していく。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅や入所施設 病院等に行き、ご利用予定の方に合い直接話を聞く。ご本人の不安に思っていることや求めていること等を聞きながら、親しい関係が築けるように努力する。また、併設の小規模多機能型居宅介護を利用して頂きながら準備期間を作って頂く場合もある。		同左 今後も継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用希望の際には必ず話す機会を設け、困っていることや不安に思っていることを聞く。また、GHは少人数での共同生活なので、その方に合ったペースでの生活が可能であることを話し、ご家族の不安解消に努めている。		同左 今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在満室のため、お待ち頂く間、小規模多機能のご利用を勧めている。また、法人内外の他のサービスの紹介や具体的利用方法を話している		同左 今後も継続していく。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開所時は事前にさくら草内で慣れて頂く事が出来なかったが、現在は併設の小規模多機能型居宅介護を利用して頂きながらさくら草に馴染んで頂くことが出来る		同左 今後も継続していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に掃除や調理、片づけ等の家事をし、お互いに助け合うことで、連帯感が生じる。同じ時間を共有する中で、喜怒哀楽が自然に表現されている。また、料理などで先人の知恵を教えることもある。		同左 今後も継続していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出や行事の時には参加が可能な家族に声かけし、付き添いをお願いしている。また、ボランティアをお願いし、フラワーアレンジメントをご利用者へ教えて頂いている。不安感の強いご利用者には付き添って頂き、職員と共に対応して頂くことがある。		同左 今後も継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来所時には本人と家族がゆっくり話が出来る状況を作り、時には少し職員が同席しながらお互いに理解を深めるようにしている。また、面会のあまりない家族には電話でも近況報告を行い、時間を作り面会をしていただくように働きかけている。		同左 今後も継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や近隣の方、所属している団体のメンバーの方など随時来所されるように声かけし、職員とも馴染みになってきている。なじみの場所へは家族、友人等に協力して頂き出掛けて頂いている。		同左 今後も継続していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に家事をしたり、散歩や体操などのレクリエーションに参加して頂きながら、利用者同士が穏やかに関わりをもてるように支援している。職員が中に入り調整する事もあるが、利用者同士の連帯感も生まれている。		同左 今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今月初めて1名の方が退所されたが、同じ法人の特養に入所されたので、職員が時々会いに行くことが出来る。		同左 今後も継続していく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な利用者には随時希望等聞くように心がけている。それが難しい方の場合、家族の情報や生活されている様子から本人の意向をくみ取るように検討している。		同左 今後も継続していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の時や入居後のご家族との情報交換、また本人から直接聞き把握に努めている。		同左 今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りの時に、一日の過ごし方や心身状況等細かく報告を行い、それを記録していく。勤務開始時には記録に目を通し、情報の共有に努めている。		同左 今後も継続していく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的あるいは利用者の状況に変化が生じたとき、家族や利用者を交え管理者、職員がプランの見直しを行っている。また、職員会議の時間を利用し、ケース検討を行いプランに反映させている。		同左 今後も継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や疾病などで利用者の状況に変化が生じた場合は、状況に応じて見直しをおこない、現状に即したケアプランを作成している。		同左 今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に勤務者がそれぞれに気づいたことをその日の担当者に伝え、担当者が記録している。職員は必ず目を通し、情報を共有している。状況でプランの見直し等をする事もある。		同左 今後も継続していく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症のデイサービスやショートステイ、小規模多機能施設を利用しながら自然に入居して頂いていく。	同左 今後も継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営推進会議に出席して頂いている。消防署にも防災面で指導して頂いている。今年度は傾聴ボランティアに協力していただくように検討している。	同左 今後も継続していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内に指定介護老人福祉施設が有り、併設の複数の介護サービス提供者と連携している。また、法人外の事業者とも情報を取り合うことがある。	同左 今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加をお願いしている。また、包括支援センター主催の催し物に参加するように心がけている。	同左 今後も継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族対応で定期受診をして頂いているが、受診後は家族に状況報告して頂いている。また、家族対応が難しい方には受診の支援を行っている。緊急時には直接かかりつけ医に連絡し、救急対応の病院への情報提供をお願いしている。	同左 今後も継続していく。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との連携はまだないが、かかりつけ医には家族を介し、利用者の状況を看護師や介護者の面から随時報告し、診断や治療を受けられるよう支援している。	同左 今後も継続していく。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が日常の健康管理や医療活動を中心的に行っており、随時支援の方法等の相談を行っている。また、不在の場合は法人内の看護師に相談、指示を仰ぐことができる。		同左 今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は病院に出向き、医師または看護師から経過を聞き、情報交換しながら今後の対応を検討している。		同左 今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に基づく介護について、家族から同意を頂いている。また、状況で家族来所時に家族や本人の希望を聞く事があり、その際は家族及び本人の希望を共有するように努めている。		同左 今後も継続していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意志を踏まえながらも、さくら草での対応がどこまで可能か、本人にとってどうしていったら一番良いか入居時に話し合いを行うよう心がけている。終末期の支援については段階的にご家族との話し合いを行うようにしている。	○	同左 今後も継続していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居されるときには本人及び家族、ケア関係者に見学して頂き、納得して頂くようにしている。また、入居時には使い慣れた家具や食器等を持ってきて頂くなどの配慮をしている。		同左 今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴やトイレの介助の時には、他の利用者には気づかれないように配慮している。記録などの個人情報の取り扱いには十分注意している。		同左 今後も継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の側に付き添い、ゆったりとした雰囲気の中で本人の話しに耳を傾けるように努めている。また、本人に合わせた言葉遣いで話しかけ、自己決定しながら生活して頂くように心がけている。		同左 今後も継続していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間等本人のペースに合わせて柔軟に対応している。入浴なども状況によっては日時をずらすなどの対応をし、強制することの無い様になっている。		同左 今後も継続していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時や入浴後には本人が選んだ衣類を着て頂いたり、一緒に選んだりしながら、季節にあった服装をして頂くように心がけている。理美容は行きつけの美容院に行ってもらったり、希望で事業所内に美容師に来て頂いたりしている。		同左 今後も継続していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を一緒に行いながら職員も一緒に食べ、食事が生活の楽しみになるように働きかけている。また、好みを把握し、食べられないものに関しては別の物で対応している。食後の片づけも一緒に行っている。		同左 今後も継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事の時に提供している。施設内の食事やお菓子だけでは気持ち的に満足感が得られないと思うので、時には買い物に出掛けて職員が付き添いながら好きな物を購入して頂いている。また、一人での外出が可能な利用者には自由に買い物に行ってもらっている。		同左 今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	そのときの状況に応じて、こまめに対応している。退院直後はオムツ対応の場合も多いが、様子を見ながら、トイレでの排泄の声かけを行っている。職員共通対応とし、多少の失禁でもオムツに戻らないで対応している。個々の排泄パターンに沿って支援している。		同左 今後も継続していく。
	○入浴を楽しむことができる支援	週に6回入浴口を設け個室に入浴して頂いている。利用者		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に〇日入浴日を設け隔日に入浴して頂いている。利用者も把握して楽しみにしている事が多い。どうしても入浴したくないと言われたときは無理に勧めず、時間をおいて再度勧めるか、翌日の対応としている。		同左 今後も継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は家事やレクリエーションなどに参加して頂き、生活リズムを作っている。午睡や夜の就寝時間も本人の希望に委ねている。休息も自由にして頂いている。また、清潔な寝具や寝間着で心地よくお休み頂くように心がけている。		同左 今後も継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物等の外出やお弁当を持っての散策等を随時実施し、生活に楽しみを持って頂く様にしている。また、協力しながらの掃除や食事の準備 後かたづけなどを行うことで張り合いを持って頂くようにしている。		同左 今後も継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に所持していることで穏やかに過ごされる方もいるので、紛失しないように注意しながら見守っている。また、自由に買い物に行かれる方には、その都度お金を渡している。基本的には立替で対応している。		同左 今後も継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暑さ寒さが厳しくないときに、体調を見ながら希望に添って対応していくように心がけている。		同左 今後も継続していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花見や戸外での食事、また寿司店などへ出掛ける機会を定期的に作っており、次の機会を楽しみにして頂いている。		同左 今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。また、不安感や寂しい気持ちが強いときにも電話で家族と会話できるように支援している。		同左 今後も継続していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めず自由に訪問して頂いている。また、居室やリビングでゆっくりと過ごせるようお茶を出したりしながら配慮している。		同左 今後も継続していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に明記しており、全職員に身体拘束をしないケアを周知徹底している。精神安定剤等も主治医と相談し、極力使用しないで対応している。混乱したり不安感が強い利用者には側に付き添い訴えを聞いたり、気分転換を図る工夫をしながら対応している。		同左 今後も継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	小規模多機能の利用者で非常に外出事故を起こす可能性の高い方が何人もおられるため、玄関の施錠は実施している。ただ、住居が2階なので施錠されていると苦情を訴えられるご利用者がおられない。		同左 今後も継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	起床時、朝食時 10時 昼食時 15時 夕食時 就寝時 夜間巡回時全利用者の所在や人数確認を行っている。職員はかならずフローアーに一人は居る様にし、離れるときは声をかけ合いながら、対応している。		同左 今後も継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の施錠は行っていないが、現時点では危険な状況にはない。ただ、居室で鉛などを誤嚥しないように、さりげなく声かけなどを行い確認している。		同左 今後も継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は防火管理やリスクマネジメントの講習を受け、職員会議や申し送り時に報告するようにしている。転倒や誤嚥の可能性の高い利用者は常に見守るよう心がけている。また、事故が起きた場合は報告書を作成し、今後に向けた対策等を検討している。		同左 今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事対応のマニュアルと連絡網を作成し、掲示している。また、年に何回かは看護師が急変時等の対応について職員会議で講習を実施している。		同左 今後も継続していく。
	○災害対策	各居室に防災頭巾を設置、事務所にヘルメットを備えた。利用者に対する玄関と玄関相室の避難訓練を実施している。		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	用者を父兄役間と登壇窓正の避難訓練を実施している。災害時には法人(松友会)や自治会の協力をお願いしている。運営推進会議の時に地区の避難場所を確認している。また、職員が自治会主催の避難訓練にも参加し、近隣の方に認識していただいている。		同左 今後も継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に転倒等のリスクについては説明している。糖尿病や膀胱ストマ対応の利用者の場合、家族と施設看護師、職員が話し合いを持ち、今後考えられるリスクや、異常時の対応について話し合いを持っているが、基本的には本人の希望に沿った生活をしていただいている。		同左 今後も継続していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員同士が常に連携し体調の変化や異変の早期発見に努めている。普段の申し送りで個人個人の状況を把握し、普段と異なると感じたときは、速やかに対応できるように職員会議などで対応方法の確認を行っている。		同左 今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書をファイルしており、変動が有ったときは随時連絡ノートで周知する様に心がけている。また、処方薬が変わった際には体調等に変化がないかどうか看護師を始め職員も気を付けている。		同左 今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認票を目に付かないところに貼付し、便秘の有無等職員が把握するように努めている。規則正しい生活と適度な運動を(毎日体操をしている)心がけ、バランスのよい食事や十分な水分摂取が出来るように配慮している。		同左 今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と毎食後 口腔ケアをして頂いている。また、往診による歯科受診も支援している。就寝時は義歯の洗浄 消毒を行っている。自分で出来ない利用者の場合職員が対応している。		同左 今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体格や運動量に合わせた食事量の提供に心がけている。毎月体重測定を実施し、極端な体重の増減が無いかどうか確認しながら、食事量にも配慮していく。水分は不足しないようにこまめに提供している。水分摂取が充分に出来ていないと思われるときは、水分と尿量の確認をしている。食事摂取量は毎食記録している。		同左 今後も継続していく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師の指導の下実行している。冬場のノロウイルスやインフルエンザ、またMRSA等については随時マニュアルを作成してそれに沿って対応している。		同左 今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒と布巾類の塩素系消毒薬による消毒は常時実施している。食品類は賞味期限等を常に意識し、安全に調理するように努めている。		同左 今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に扉等もなく、誰でも訪問できる様になっている。玄関周辺には利用者家族が花などを植えて、手入れをしてくださっている。		同左 今後も継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員同士の会話や食事後片づけの際に不快な音がしないように心がけている。また、まぶしいと訴えがあったときや、真夏の強い日差しはカーテンなどで遮るようにしている。季節の花や行事に合わせた飾り付けをし、居心地の良い空間を提供するようにしている。		同左 今後も継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングを使い分け、自由に過ごして頂くようにしている。ソファで利用者同士会話したり、食堂テーブルで一人で過ごしたりと自由にして頂いている。		同左 今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染んでいる物を持参して頂いている。本人の希望に応じて家族が随時模様替えしたり、フラワーアレンジメントで作製した花などを飾り、居心地良く生活して頂くようにしている。		同左 今後も継続していく。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>建物全室の換気扇を常に作動させ、換気を心掛けている。エアコンの温度調節はこまめに行い、外気温とのさが大きすぎないように配慮している。</p>	<p>同左 今後も継続していく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内は全てバリアフリーになっており、随所に手すりを設置し、安全に自立した生活を送って頂けるようになっている。また、車いす用のトイレはかなりゆったりしており、車いすを使用しながらも自力でトイレの利用が可能な方もいる。</p>	<p>同左 今後も継続していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレの表示や各居室の氏名の表示を行い、混乱されないように工夫している。利用者によっては居室内のダンスに探しやすいように分類名を明記している。また、個人の食器や衣類にも氏名を明記している。</p>	<p>同左 今後も継続していく。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物に隣接している駐車場で、日光浴や夕涼み等をして頂いている。また、外回りに野菜や草花を栽培し、収穫したり鑑賞して頂いている。昨年末には駐車場で餅つきをし、楽しんでいただいた。</p>	<p>同左 今後も継続していく。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)